

「流行」を支える「不易」の重要性

代表取締役社長 千石雅仁



授賞式に先立ち、主催者であります東京書籍を代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます。

東京書籍の創立75周年を記念して創設し、今年で33回を迎えるこの「東書教育賞」に、今回も全国各地の先生方から、100編を超える多くの論文をお寄せいただきました。その中で、本日、小学校・中学校それぞれの部門で賞をお受けになられる先生方に、心よりお祝いを申し上げます。誠にありがとうございます。

昨年3月には小学校・中学校の新しい学習指導要領が告示され、6月には解説書も公開され、現在私どもは、この新学習指導要領のもとでお使いいただく新しい教科書と、それに付随した教材の制作を本格的に進めております。

そして今年度中、3月までには、高等学校の新しい学習指導要領が告示され、新教育課程の全容が判明しようとしております。

新学習指導要領では、プログラミング教育やGIS（ジーアイエス 地理情報システム）の活用などに代表される、教育のICT化を背景としながら、「主体的・対話的で深い学び」、「カリキュラム・マネジメント」、「インクルーシブ教育」といった、従来とは異なる教育の視点が示され、これが新教育課程に沿って行われる、学校教育の核になっていくことは確実でしょう。

今回、全国の先生方の応募論文全体に目を向けますと、こうした新しい流れをいち早くとらえた論文を多くお寄せいただいたと感じており

ます。

「主体的・対話的で深い学び」や「カリキュラム・マネジメント」、「インクルーシブ教育」といった新しい視点を、学校教育の場で具体的な実践として形づくっていくためには、しっかりとした骨組みが必要になります。

こうした点で、今日ここにお越しいただいた受賞者の先生方の論文は、これまで重ねてこられた実践の中で蓄積されてきた、確かな指導理論と方法論を基に、新しい教育の視点を具現化した優れた実践論文として、これから新教育課程のもとで行われていく、全国の先生方のご実践の範となるものです。

物事を「不易と流行」という対比で語ることがありますが、先生方の論文からは、新しい教育の視点のような「流行」を支えているのは、これまで蓄積されてきた教育理論や指導法という「不易」の部分であることを、改めて気づかせていただきました。

それは例えば「カリキュラム・マネジメント」につながる「総合的な学習の時間」や、「インクルーシブ教育」につながるこれまでの「特別支援教育」であり、「プログラミング教育」をどのように位置づけるかという視点の重要性です。

少し話は変わりますが、学習指導要領の改訂にあたっては、従来の教育課程を否定しないという意味で、文言が抜本的に変わることはあり

ません。また、学習指導要領は法的な文書であるため、「アクティブラーニング」のような外国語を盛りこむことには、相当の理由が必要であるという話も聞いたことがあります。

私はこうした点について、以前は少し「時代遅れ」の感があると思っておりましたが、今はそうではないと考えるようになりました。

教育基本法の第1条に定められている「教育の目的」は、現在の日本が直面している資源やエネルギーの問題といった「現代的な諸課題」を解決して、平和で民主的な国家・社会の形成に寄与する「主権者」を育成することですが、それは、新教育課程で示されている新しい教育の視点を、連綿と続いてきた日本の教育の確かな実践によって具体化することでこそ、実現が可能なのだと考えております。

今日、ここにお越しいただいた先生方が、新

しい教育の視点を、これまでの確かな蓄積によって実践されている点を心強く感じるとともに、今後の東京書籍が目指すべき方向性を、改めてお示しいただいたと感じております。

これからも「教育の目的」の実現に寄与できる、確かな商品・サービスを提供できるように、気持ちを新たに取り組んでいく所存でございます。

最後になりましたが、ご多用の折に、今年度の最終審査をご担当いただきました審査委員の先生方、一次審査をご担当いただきました東京教育研究所主任研究員の先生方をはじめ、ご協力をいただきました多くの先生方に、この場をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げます。

受賞された先生方の、今後の益々のご活躍をご祈念申しあげ、ご挨拶といたします。ありがとうございました。